



平成27年3月

第50号

荒川区立南千住第二中学校

(題字:校長 齊藤 進)

ナンちゃん・ニーくん



## 今を生きている君たちへ

～ 命の講演より ～

校長 齊藤 進

約束してほしい どんな理由であっても 親より先に死んではならない

約束してほしい どんな理由であっても 人の命を奪ってはならない

(いのちのミュージアム 約束より一部抜粋)

鈴木共子さんのもとに深夜、警察から1本の電話がありました。2000年4月9日のことです。それは最愛の一人息子零さん(19歳)の死を告げるものでした。検問を振り切り逃げてきた飲酒・無免許・無車検の暴走車に一瞬にして命は奪われました。零さんは一年の浪人生活ののち念願の早稲田大学に入学しました。明日から授業が始まるというときに友人とともに事故にあったのです。その日、友人との懇親会で遅くなった零さんから「お母さん車で迎えに来て」と駅から電話がありました。その後、母共子さんは、その時息子を迎えにいったあげていればとずっと後悔し続ける日々を送ります。警察の霊安室で変わり果てた最愛の息子零さんと対面した母共子さんの心情を思うと胸が張り裂けそうになります。

過去にもひき逃げし、無免許で捕まったこともある犯人なのに、処罰が業務上過失致死で最高でも5年以下の懲役・禁錮または50万円以下の罰金という窃盗罪よりも軽い刑罰の不条理に共子さんは法改正に動きまわります。危険運転致死傷罪はその後国会で可決され法律が改正されました。

母共子さんは零さんが果たすことができなかった大学生活の夢を叶えるために、自ら受験勉強し2年間の浪人生活ののちに早稲田大学に合格しました。零さんが使った参考書を使っていると息子と会えているようです、とおっしゃる鈴木共子さんの言葉がいつまでも心に残っています。

全校生徒を対象とした命の大切さをテーマとした講演会に、いのちのミュージアム代表理事の鈴木共子さんを講師としてお迎えしました。鈴木さんの話に涙を流しながら聴き入る生徒もいました。鈴木さんの「生きたくても生きることのできなかつたいのちがある」という言葉に全ての生徒が改めて命の大切さと生きていることへの感謝の気持ちをもつことができたと思います。川崎市で起こった事件など、どうも最近では命の大切さを思う気持ちが失われつつあるような気がします。鈴木さんの思いを一人でも多くの人たちに伝えていく必要があると強く思いました。



## 命の大切さを学ぶ教室

前頁でも紹介したように、2月14日(土)の授業公開日に、「命の大切さを学ぶ教室」が行われました。この会は、警視庁南千住警察署と南千住二中が共同で行うもので、犯罪や事故の被害者の遺族にご来校いただき、家族を亡くした苦悩と命の尊さを伝えていただくものです。

この日は、一人息子を飲酒運転の車にはねられ亡くした、鈴木 共子さんにご来校いただきました。違法な飲酒運転で大切な子を亡くした無念ばかりでなく、今ある命の大切さを改めて感じさせてくれるお話でした。

会の終わりには、生徒を代表して2年1組の女子がお礼の言葉を述べ、2年1組の男子が鈴木さんにお礼の花束を贈りました。

鈴木さん、貴重なお話をありがとうございました。

会が終わった後には、教室に戻り感想文、鈴木さんへのお手紙を書きました。どの生徒の文章も命の大切さを改めて認識するとても深い内容でした。感想文、お手紙は鈴木さんに送らせていただきました。



鈴木さんのお話に関き入る



### 今を生きている君たちへ

今 君たちは生きている

君たちの心臓は  
ドクンドクンと  
力強く命を刻む

昨日があって  
今日があって  
明日があって

うれしかったり  
悲しかったり  
悔しかったり

生きていればその日々を重ね  
生きていればその感情に揺れながら

今 君たちは生きている

でも僕らは  
様々な理由で  
ある日突然  
命を絶ち切られてしまった

生きたくても  
生きることができなかった  
だから  
生きているって  
当たり前じゃないんだよ

君たちは  
奇跡の命を生きている  
いとおいしい命を生きている

今 君たちは生きている

生きていればその夢をもって  
生きていればその希望をもって

生きたくても  
生きることの出来なかった  
僕らの分まで  
精一杯生きてほしい

今 君たちは生きている

生きていることは  
すばらしい

【生きたくても  
生きることができなかった僕らより】



お礼の言葉と花束贈呈



## 注目されるレスキュー部

南千住二中レスキュー部がまたまた注目を浴びています。前号では東京都教育委員会生徒表彰を受賞したことを紹介しました。その立派な賞状と楯が送られてきました。

3月2日(月)にはテレビ朝日が取材に訪れました。レスキュー部の絆ネットワークが注目されました。万が一の大災害時に、避難所となった南千住二中に高齢者などを誘導することを目的としています。普段からの交流がそれをスムーズに行わせると考えてのシステムです。この日も1年間の活動報告とこれまで取り組んできた3年生が卒業するにあたってのごあいさつ文を高齢者のご家庭にお届けしました。この模様は3月7日(土)のお昼のANNニュースで東日本大震災から4年のニュースに関連して放送されました。

また、大震災からちょうど4年の3月11日(水)の産経新聞には東京版に中学生が地域防災に果たす役割として、南千住二中レスキュー部の記事が大きなカラー版で掲載されました。絆ネットワークばかりでなく、普段から地域ボランティアとして地域の大人と関わる中学生の姿が、大変高く評価されています。

レスキュー部のボランティア活動や絆ネットワークが、また、JRC活動や地域学習を通して南千住の町に誇りや地域を愛する気持ちをもつことが、いざというときのために役立つことはまちがいありません。このような活動が評価され、来年度から荒川区の全区立中学校に「防災」に関わる部活動が設置されることが決まりました。その先進校である南千住二中が、改めて注目されています。



活動前に説明を受ける3年生部員

## 人形浄瑠璃鑑賞教室

3月13日(金)、荒川区立中学校「人形浄瑠璃鑑賞教室」が行われました。普段中学生がなかなか見ることが少ない日本の伝統芸能である人形浄瑠璃を鑑賞できる機会を荒川区が与えてくれました。南千住二中は、午前の部に1年生が参加しました。

人形浄瑠璃は文楽ともいわれ、日本古来の楽器で奏でる音楽にあわせて行われる人形劇です。この日の演目は「義経千本桜」でした。残念ながらその様子は写真撮影禁止のため掲載できませんが、その内容も大変おもしろく、1年生は真剣に見入っていました。事前に音楽の授業で、また、学年全体で社会科の先生からもその成り立ちや歴史について教わっていたことも興味につながりました。1年生は、鑑賞態度が良かったことに加え、行き帰りの団体行動もしっかりできました。



社会科の先生の説明



興味をもって説明を聞く1年生

卒業式を前に3年生の行事が続きました

## ようこそ青年海外協力隊

3月5日(木)の5・6校時には、「ようこそ青年海外協力隊」が行われました。この会は、青年海外協力隊員として実際に国際社会で活躍・貢献した方をお招きしてお話を聞き、国際交流や異文化理解、国際協力について考え、理解しようとするものです。この日はインドネシアの大学で日本語教師として活動した 箕輪 明希子さん、アフリカ・ウガンダの中学・高校で理数科教師として活動した 前田 浩徳さん、南米・ベネズエラの地方の小学校で青少年活動の音楽指導に携わった 佐藤 タさんの3人の方にご来校いただきました。

3人とも青年海外協力隊(JICA)の一員として、自身のもつ専門知識を駆使し、発展途上の国々で国際貢献をしてきました。その経験を紹介してくださいました。どの方のお話も実体験に基づくもので臨場感もあり、日本との違いに驚いたり、異文化を理解することの重要性に気づかせてくださいました。日本も戦後復興期には国際協力を受けていたことがあります。経済発展を遂げた今、日本の国際社会に果たす役割は大きいといえます。改めて、私たちに国際理解や異文化の理解そして今後の国際協力のあり方を考えさせてくれました。

会の最後には、全体会で3年2組の女子学級委員が代表してお礼の言葉を述べました。講師の先生方ありがとうございました。



熱心なお話とお礼の言葉

3年生

## 性教育講演会

3月11日(水)5・6校時には、「性教育講演会」が行われました。2年生の時には、生命誕生の尊さや赤ちゃんへの接し方などが中心でした。今回は、現代の若者に広まる性感染症から自分を守る具体的なお話を中心とした。この日講師を務めてくださったのは、テレビやラジオにも多く出演している、ヘルスプロモーション推進センターの医師 岩室 紳也先生でした。先生は、エイズ患者などの治療に携わる方です。若者に広がる文化を理解し、様々な場面での性感染症予防について具体的にお話をしてくださいました。普段なかなかたしき知識を知ることができない内容でもあり、また、大人の世界に入っていくと避けて通ることができない「性」の問題について正しい知識を教えてください、真剣に考える機会を与えてくださいました。岩室先生ありがとうございました。

自分のこととして真剣にお話を聞く



3年生

## 卒業遠足

3月12日(木)には3年生の校外学習、東京ディズニーランドへの卒業遠足でした。この日は都内、首都圏の中学校の卒業遠足がとても多い時期で、ディズニーランドは大混雑。それでも賢く園内を回り、たくさんのアトラクションに乗れたようです。大混雑の中でしたが、たくさんの思い出ができ、友情を深められました。

今回の遠足は、クラスを越えて2~6人のグループを作り、出発から帰宅まで、1日そのグループで行動しました。朝の出発に遅れるグループもなく、また、帰りのチェックにも遅れることもなく、大変立派でした。

たくさんのお土産を手に、そして、たくさんの思い出を胸に、満面の笑顔で帰宅の途につきました。



楽しい1日

## 三年生を送る会

3年間の思い出を寸劇に



3月16日(月)朝の生徒会朝礼の時間に1・2年生生徒会が企画・運営する「三年生を送る会」が開かれました。在校生から卒業生への感謝の気

持ちを表し、お別れをする会でした。会の進行は生徒会本部が務めました。はじめに1・2年生を代表して生徒会長(2-1)が3年生への感謝の言葉が送られました。また、一人一人の感謝の言葉を記したメッセージボード、アンジェラ・アキの「手紙」の合唱などがプレゼントされました。

3年生からは、学年委員長(3-3)からお礼の言葉が述べられ、生徒発表会でも歌った「道」の合唱をお返しとして歌いました。1・2年生が自分たちの手で作り上げた、たいへん心がこもった会になりました。会が終了してからは、「協力ありがとう。これからも生徒会活動を盛り上げましょう。」と、生徒会長から1・2年生全員にもあいさつがありました。

3年生は3月19日(木)に卒業式を迎えます。卒業式も全校で心を1つにして素晴らしいものになると期待されます。



1・2年生からのメッセージボード



3年生の全員合唱

## アリーナ天井工事完了

11月から続いていたアリーナ(体育館)天井の工事が完了しました。耐震性向上のためにつり下げ式の天井が取り払われました。これまで以上に安全性が向上しました。これに伴い、照明もLEDライトに交換されました。これまでの水銀灯に比べ、点灯に時間もかからず、明るく、さらに明るさの調整もできる優れたものです。天井も高くなり、開放感もあります。早速、朝礼等も行われました。卒業式も生まれ変わったアリーナで実施されます。



## 部活動等 生徒の活躍

《ソフトテニス部》 荒川区冬季研修大会(ダンロップ杯) 女子団体 部 **第3位** 女子団体 部 **準優勝**

《バレーボール部》 荒川区冬季大会 女子 **準優勝**

《パソコン部》 毎日パソコン入力コンクール (級取得者多数、次号以降に紹介します)

## 南千住マイスターのコーナー

開場した当初の寄席の出し物は浪曲が主で、時には歌謡曲などが歌われました。翌年からは、落語と講談が中心になり、若い落語家たちが稽古と修行に励みまし。また終戦後、東京の漫才は沈滞していましたが、この頃「東京漫才研究会」が結成され、ラジオテレビにも出演するようになっていきました。しかし、その頃の寄席は落語が中心であり、当時演芸としての地位が低かった漫才は定打寄席として研究を確保するのが悲願でした。昭和32年になって栗友亭を定打寄席として研究会が開催されるようになったため「東京漫才発祥の地」と呼ばれるようになりまし。当時、栗友亭に出演していたのは、村田英雄や南条文若(後の三波春夫)、落語では三遊亭内楽や月之家内鏡橋家内蔵、林家三平、そして漫才ではコロンビアトップ・ライト、内海桂子、好江、獅子てんや、瀬戸わんや、春日三球・照代 等、昭和では誰もが知る売れっ子の蒼々たる芸能人たちが名を連ねています。しかし、通常70円という低料金で寄席を開いていたため 経営は苦しく、さらにテレビの普及によって、開場から4年後に栗友亭は幕を下ろしました。そしてもう一人、忘れてはならない昭和の超有名芸能人が南千住との関わりをもっています。その人は、昭和の歌謡界を代表する、かの「美空ひばり」です。戦後間もない混乱の時代、幼いひばりの才能を見抜いた母は私財を投じて青空楽団を設立し、昭和21年9月、南千住の第四瑞光小学校(現・汐入小)の校庭につくられた舞台で美空ひばり初ステージを開催します。少女だった美空ひばりの歌声は、多くの人々に希望を与えました。ひばりは当時9歳でした。美空ひばりの母は南千住三丁目目の石炭販売業の家に生まれまし。それでこの地での初舞台となったわけ。南千住の歴史をひもとくと、多くの歴史的事件や事象、有名人にたどり着きます。この町が人々と一緒に歴史を歩んで来たのだと改めて感じさせられます。

南千住と歴史上の人物 最終回

栗友亭 現・栗本商店

